

目次	頁
序	
凡例	
時代の概観	1
第一章 総説	13
第一節 領国としての尾張	14
地域の成り立ち／尾張藩の支配構造／社会的諸身分と地域社会／産業と物流の展開／暮らしと文化	
第二節 非領国地域としての三河	30
三河の地勢と産業／国境・郡境と河川流路／錯綜した支配の形成と地域支配／御同国関係と広域支配／錯綜した支配がもたらすもの	
第二章 都市の人々の暮らし	51
第一節 城下町名古屋の成立と熱田・犬山	52
城下町名古屋の建設／城下町名古屋の建設構想／清須越と名古屋町人の形成／熱田と犬山／コラム 名古屋城の出土遺物	
第二節 名古屋の広がり与人々の暮らし	62
名古屋の町の賑わい／町人の暮らし／初期名古屋の御用商人／名古屋村と名古屋新田／コラム 花火見物と「のぞきからくり」	
第三節 三河の城下町	74
三河の近世城下町の成立／城下町の空間と構造／屋敷地の内部構造とその住人／領主支配における城下町の機能／町の由緒と特権	
第四節 尾張・三河の在郷町	88
中世都市から在郷町へ／清須・小牧／創設された在郷町	
第三章 近世村落のすがた	97
第一節 近世の村落	98
近世村落の成立／村の行政／年貢と諸役／キリシタン禁制と宗門人別改帳／人の移動	
第二節 村と村との争い	118
境をめぐる争論／山野の争論／水をめぐる争論／河海の争論	
第三節 河川と開発	130
河川と治水／新田を拓く／新田の開発主体／近世初期の新田村落／用排水／コラム 杵と坎	
第四節 家格と由緒	148
近世の村と家の格式／村の成り立ちと有力百姓／さまざまな由緒	
第四章 近世的支配の成立	163
第一節 尾張藩の成立と構造	164
松平忠吉から徳川義直へ／名古屋城築城／尾張藩領の形成と特徴／尾張入国と御黒印初／年寄衆の形成／連署状にみる両家年寄と年寄衆／光友の誕生／コラム 名古屋城本丸御殿障壁画	
第二節 三河の地域支配の成立	186
関ヶ原の戦い後の三河／旗本知行所と代官支配所／駿府政権下の三河／家康没後の三河／所領支配と検地／分散・広域化する所領	
第五章 安定した社会秩序への道	219
第一節 尾張藩政の展開	220
光友の相続と在府期の藩体制／側同心頭・国用人の台頭／年寄制の確立／綱誠と吉通／宗春の登場／宗春の隠居謹慎	
第二節 尾張藩財政の確立	240
尾張藩の財政構造／正保の四ツ概／藩財政の膨張と三役銀の創設／寛文の改革と藩札の発行／財政危機と天和の改革／元禄年間の財政と調達金／儉約と緊縮財政／藩政改革により困窮する藩士／藩財政外の資金との相互関係	
第三節 錯綜する三河の所領	264
藩領の形成と領主交代／分知する領主家／諸藩の動きと幕領の動向／藩領再編と赤坂代官所の設置／	

元禄地方直しと官僚化する領主／安定した地域支配へ	
第四節 三河における大名支配の展開	294
交代する大名家／家臣団編成と法による家中支配／支配機構と職務／地域支配を引き継ぐ	
第五節 幕領と旗本知行所支配の動向	306
三代官の時代／官僚型代官の登場／旗本の知行所支配と財政／陣屋と地代官／分知旗本と本家／連帯する旗本家の知行支配	
第六節 災害の発生と対応	326
風水害の発生／飢饉への対応／地震・津波／都市と火災／日照り・獣害・虫害	
第六章 近世的支配の特質	341
第一節 江戸・上方と国元	342
江戸屋敷とその役割／江戸屋敷の運営／幕府要職就任と家臣団の役割／参勤交代と江戸・国元	
第二節 権威と支配	358
儀礼の世界／拝領と献上／武士身分の周辺／コラム 鷹犬	
第三節 山の支配	370
尾張藩の木曾山支配と運材支配／尾張藩の林政改革と山守／川並役所による流木取締り／川廻り役と留木裁許人／尾張の御林と支配／三河の御林と支配	
第四節 交通網の整備	392
東海道と主要街道の整備／伝馬制度と人馬継立／宿泊と通信／幕藩領主の宿助成／助郷制度の成立／水上交通／橋と普請	
第七章 さまざまな産業の展開と殖産興業	421
第一節 窯業専売制と関連産業	422
美濃窯から瀬戸窯へ／近世瀬戸窯の展開／常滑焼／尾張藩蔵元制度／製粉・精土業／犬山焼と三州瓦／七宝焼／コラム 『張州雑誌』にみる近世瀬戸窯	
第二節 繊維産業	446
白木綿と縞木綿／知多白木綿の生産と販売／養蚕業と蚕種／縞木綿の発展／結城棧留縞／有松絞りの生産と販売／三河木綿の生産と販売	
第三節 醸造業	468
名古屋の酒造業／尾張の酒造業／三河の酒造業／尾張・三河の味噌／尾張・三河の酢・味醂	
第四節 農業と農産加工	480
農書からみる尾三の農業／米作と畑作／畑地の産物／農業特産品の生産／農業技術の発達と肥料	
第五節 水車業の発展	496
尾張の水車と絞油業の発展／木曾三川流域の搗麦／三河の水車稼ぎ	
第六節 漁業	506
尾張の海村・三河の海村／鰯漁の展開と漁の規模／三河の漁業と領主の支配／尾張藩の漁業支配／鯨漁と海鼠漁／漁をめぐる争い／木曾川・矢作川の鮎漁	
第七節 林業と鉱物加工	524
尾張藩の木曾林業／木曾川の材木運送／三河の山林と用材の切出し／三河の植林と林業経営／川島村の材木商太田屋佐兵衛／山荷物の生産と流通／鉱物と石材加工	
第八章 寺社と信仰	549
第一節 近世寺社領の成立	550
寄進から安堵へ／尾張近世寺社領の起点／三河近世寺社領の起点／尾張の朱印地寺社／三河の寺社領と検地	
第二節 近世寺社領の展開	570
寺社領の存続と武家領主／寺社領主の役目／寺社領民の動向／領主か地主か／近世寺社領の解体	
第三節 権力と寺社	588
東照宮をめぐる動向／始祖への関心／寺社と赦免／在家と出家の宗教者／寺院本山の勢威と小領主／コラム 天守と宗教	
第四節 人々の生活と宗教	608

宗教者の活動と信仰／流行神と信心／人々の生活と寺社／生業と年中行事／ 祭礼とその担い手／津島天王祭	
第九章 領主と庶民の文化と教育	627
第一節 さまざまな文化の受容と広がり	628
和歌／狂歌／俳諧／狂俳／茶道と煎茶／華道／弓術	
第二節 芸能文化	654
浄瑠璃／歌舞伎／地芝居／能楽／雅楽／コラム 平曲と新たな音楽	
第三節 尾張藩の編さん事業と尾張学	674
義直の編さん事業と藩史編さん／『士林沂沅』『事蹟録』の編さん／「御系譜御記録調」と継述館／ 御記録所・御日記所の編さん物／藩史編さんと尾張学・名古屋学／ コラム 名古屋市蓬左文庫に伝わる朝鮮本	
第四節 藩校と教育	690
尾張藩藩校明倫堂の成立／幕末・維新期の明倫堂改革／三河諸藩の藩校	
第五節 庶民教育の普及	704
寺子屋の普及／寺子屋の師匠と教育内容／漢学塾と算学塾／庶民教化と教諭書出版	
あとがき	724
執筆分担	726
引用・参考文献一覧	728
掲載図版一覧	744
資料提供者および協力者	754
愛知県史編さん関係者名簿	756
索引	